

(仮称)協働マニュアル骨子(案)

※今後、キャッチフレーズとなるようなものを考える。

【はじめに】

(1)前書き

- ・作成の目的やコンセプト等を前書きに入れる。

(2)協働の対象

- ・協働には行政と町民活動団体、企業と町、個人と個人など、様々な形がありますが、このマニュアルでは町と町民活動団体・グループとの協働を対象としてまとめます。
 - ・町が協働する相手として考えられるのは、個人や団体の場合もありますが、このマニュアルでは公共サービスの担い手として活躍が期待される団体を対象としています。
- ※このマニュアルで対象としている町民活動団体、企業、大学等については、以下総称してパートナーと呼びます。

【基本編】

Q1 協働ってなんだろう？

(1)協働の意味

- ・自治基本条例で規定している協働の説明、わかりやすくかみ砕いた協働の説明
- ・共同、協同、協働について、それぞれの意味の違いを説明（★参考資料1）

(2)具体的事例をもとに協働の説明(図解) ★参考資料1

- ・(例)子どもの見守り活動
→各主体が課題解決に向け協働で取り組むことを図などを用いて説明をする。
※各市では、協働の概念を図解で説明していますが、具体的な課題を事例にあげて説明した方がイメージが付きやすいのではないかと考えました。

(3)寒川で発見！協働の事例紹介

- ・寒川町みんなの協働事業提案制度モデル事業へ実際に提案され、すでに実施している事業等の中から、1～3つほどの事例紹介をする。

Q2 どうして協働が必要なの？

(1)協働が必要となった背景(文章+図解) ★参考資料2・3

- ・少子高齢化等の様々な社会状況の変化により地域課題が複雑化し、町民だけの解決は困難なうえ、行政であっても解決が容易でないものも増えています。そのため、行政の良いところとパートナーのいいところを組み合わせることによって、より効果的な取り組みが期待できるのです。

(2)協働の第一歩(文章+図解) ★参考資料4

- ・協働は、課題の解決のために計画・実行・評価・改善という流れの中で一緒に取り組んでいきますが、各段階の一部分のみ取り組むことも協働の第一歩です。

Q3 協働で期待できる効果って？

(1)協働の効果

○お互いの特性や得意分野をいかすことで、アイデアが豊富になったり、事業が円滑に進みやすくなります。また、お互いのネットワークを活用して、幅広い事業展開ができ、課題解決に向け高い効果が発揮されます。横浜市を参考として、協働することによる全体的な効果を記載する。(横浜市)

○住民にとっての効果

- ・住民の多様なサービスへの対応(協働することにより、受けるサービスの幅が広がる)
- ・住民主役のまちづくり(協働することにより、地域の団体が活性化し、地域自体も活発になる。自治意識の高まり、キャリアや能力等を活かすことで生きがいの創出の場となる)

○各パートナー(住民活動団体、企業、町)の効果

- ・住民活動団体：社会的認知度の向上、活動の活性化
- ・企業：地域との関係性構築、イメージアップ
- ・町：住民ニーズに対応できる、既存事業の見直しの契機

(2)協働コラム

○町の経費節減や業務削減のためではないが、結果的に経費削減等に繋がったとしても、それは結果として生じるものであり、協働の副産物です。

Q4 協働を進めるためのルールは？

(1)協働のルール(横浜市)

- 対等の原則
- 自主性尊重の原則
- 自立化の原則
- 相互理解の原則
- 目的共有の原則
- 公開の原則

Q5 協働の領域とかたち

(1)協働の領域図・各形態(図解) ★協働 PR チラシ表面

○住民主体・住民主導・対等・町主導・町主体それぞれの協働について、各形態を含めて掲載。

(2)各形態の説明

○上記図解に掲載した各形態の説明（後援・補助・共催・実行委員会・委託等）

コラム 寒川町自治基本条例について

(1)条例の内容について

- 規定されている内容を、抜粋して掲載する。（町・町長等の責務、まちづくりへの参加、町政への参画等）
- 用語の説明（参加と参画の違い等）

(2)参画機会の紹介

○パブリックコメント、公募委員制度等、町に参画する機会は様々あることについてお知らせする。

【実行編】

Step1 協働して取り組める事業とは？

- 住民ニーズに対してきめ細やかな対応が必要な分野
 - ・子育て支援、高齢者介護の支援等
- 地域社会との密接な連携・協力が必要となる分野
 - ・防犯・防災活動、ごみの減量化等
- 多くの住民の参加が必要となる分野
 - ・イベント、講演会等
- 専門性が求められる分野
 - ・芸術・文化等
- 町が積極的に取り組んだことのない分野
 - ・新たな地域課題等に対しノウハウを持ち、先行的に取り組んでいる事業等

協働コラム

○協働といっても、みんな最初の一步がなかなか踏み出せないものかもしれませんが、失敗を恐れずに「まずはやってみよう！」という姿勢が大事です。例え結果的に上手くいかなかったとしても、協働して取り組んでいくために、色々な人と相談し合ったり意見交換をしたりする中でのコミュニケーションなどの“プロセス”が次へのステップとなるポイントなのです。

Step2 協働事業を進める手順

- 協働事業の検討
 - ・各主体が単独で実施するよりも効果的で質の高いサービスを提供できるか 等
- 協働のパートナーの選定
 - ・組織の特性や活動実績、財務状況等から選定する 等

○協働事業の実施

- お互いの特性を理解し、責任と役割分担を明確にして実施する 等

○事業の評価

- 事業の目的と目標の達成状況を評価し、次のステップに向けた検討を行う 等

協働コラム

○協働事業を進める際、町とパートナーが同じ目的に向かっていても、価値観等の違いにより、捉え方などが異なり、すれ違ってしまいう可能性もあります。そのためには、町とパートナーがお互いの特性や価値観などを理解し、お互いの違いを認め合い、活かしながら効果的に取り組めるようにすることが大事です。

○協働事業における評価は、お互いが評価される客体であるとともに、評価する主体です。また、協働事業としての成果に対してだけでなく、事業実施中や実施に至るまでのコミュニケーションの充実度等、プロセスも評価の大きな重点となります。

【参考編】

1 寒川町みんなの協働事業提案制度モデル事業 ★参考資料5

- (1) 制度説明
- (2) 対象になる団体
- (3) 対象となる事業
- (4) 補助対象経費及び補助金上限額
- (5) 提案制度の流れ
- (6) 協働事業の例
- (7) 応募期間・方法

2 協働事業チェックシート ★参考資料6

○伊勢原市を参考として作成する。